

教育出版『書道Ⅱ』（書Ⅱ 703）準拠シラバス

教科・科目	書道Ⅱ	学科・学年・クラス	科 年次 組
単位数	2単位	教科書・副教材	書道Ⅱ（書Ⅱ 703）教育出版

1 講座のねらい（目標）

書道の創造的な諸活動をとおして、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。（「知識及び技能」の習得）
- (2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい深く捉えたりすることができるようにする。（「思考力、判断力、表現力等」の育成）
- (3) 主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書をとおして心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。（「学びに向かう力、人間性等」の涵養）

「書道Ⅱ」は、「書道Ⅰ」の学習を基礎にして、生徒の資質・能力、適性、興味・関心等に応じた活動を展開していく。書道の創造的な諸活動をとおして、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と深く関わる資質・能力を育成していく。

(1) の「知識」は単に記憶するものではなく、書の表現や鑑賞の創造的な諸活動をとおして実感的に理解し、汎用的なものとしていくことが大切である。また、「技能」は表現活動において、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫するための効果的な技能を身につけることをねらいとしている。(2) の「思考力、判断力、表現力等」は、書のよさや美しさを直感的に受け止め、表現や鑑賞の活動の契機とすることが大切である。表現活動においては、知識や技能を得たり生かしたりしながら、自らの意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫し、鑑賞活動においては、知識を得たり生かしたりしながら、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい深くとらえたりすることができるようにすることをねらいとしている。(3) の「学びに向かう力、人間性等」は、主体的に書の創造的な表現や鑑賞の学習に取り組む態度、生涯にわたり書を愛好する心情などを示しており、(1) および (2) の資質・能力を身につけていくなかで、一体的に育成していく。

2 授業の内容と学習法

芸術科「書道Ⅱ」の内容は、「書道Ⅰ」と同様に「表現」と「鑑賞」に大別され、両者は相互に密接な関連を図って展開していくことが重要であり、「書道Ⅰ」の学習を基礎として、深く書に関わる資質・能力を育成することとしている。また、書は言葉を書き記す芸術であるから、時間性や運動性を持ち、書を構成する要素のはたらきによる独自の表現性を有している。また、書は視覚芸術であり、造形性や空間性をあわせもっている。これらの特質から書的美をとらえ、表現したり鑑賞したりするうえでの観点を十分に意識しながら学習を進めていく必要がある。

- (1) 「表現」は「漢字仮名交じりの書」「漢字の書」「仮名の書」の三分野から構成されている。「漢字仮名交じりの書」は、漢字仮名交じり文という日常的な表記を用いることから、芸術的な表現とともに実用的な表現も含まれているが、「書道Ⅱ」では「書道Ⅰ」の学習を発展させて、創造的な表現活動をとおして学習を深めていくことが重要である。「漢字仮名交じりの書」では、言葉の選定、意図に基づく構想、名筆や現代に生きる創造的な表現をふまえ、漢字と仮名の調和による全体の構成を図るとともに、表現の工夫を重ねながら作品を練り上げていく。また、「漢字の書」「仮名の書」においては、古典の臨書活動をとおして、古典の書風を直感的にとらえつつ、用具・用材と表現効果の関わり、古典の特徴と用筆・運筆との関わりを理解し、効果的に表現するための創造的な技能を身につけていくようにする。「表現」においては、意図や感興に応じた作品の構想と表現の工夫、完成作品に至るまでの学習過程を振り返り、自己課題を確認しながら次の学習活動へと展開していくことが重要となる。なお、「書道Ⅱ」では、「漢字仮名交じりの書」は「書道Ⅰ」の内容を深化させるために必ず扱い、「漢字の書」「仮名の書」は生徒の特性、学校や地域の実態に応じて一つ以上を選択して扱ってもよいこととなっている。
- (2) 「鑑賞」は表現されたものの特性、表現効果、価値などを美に対する感受性や知的理解の面から味わうことである。「書道Ⅱ」においては、書の表現の方法や形式、多様性などについて理解したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わいとらえたりしていく。生徒一人ひとりの第一印象による直感的把握を大切にし、各人が感じ取った作品や古典の印象を言葉で表現し、他者に伝え合ったりする言語活動の充実を図るとともに、その書的美をもたらす根拠や価値を考えていく。また、生活や社会における書が果たしている役割についても考えていく。鑑賞にあたっては、教科書のほか、真跡・拓本・複製や印刷図版、また ICT を効果的に活用して作品を提示することや、地域の文化財や美術館などを利用することで、主体的に鑑賞する姿勢を身につけるようにしていく。

3 履修上の注意点

書の表現や鑑賞の学習を進めていく上で、自らの感性をはたらかせることを大切にしたい。また、書のよさや美しさを味わいとらえ、生活や社会における文字や書、書の伝統と文化と豊かに関わっていくようにしていきたい。

「表現」における古典の臨書活動では、それぞれの古典がもつ特徴をとらえ、効果的に表現する技能を身につけていく。臨書活動にあたっては、古典の特徴と用筆・運筆との関わりについて理解し、一枚書くごとに自己課題を見きわめながら、個性豊かな表現の技能を身につけていくようにしたい。

作品の制作活動においては、詩文などの言葉の選定や「今、自分は何を表現したいか」という表現の意図を大切にしたい。自身の表現の意図に基づいて構想し、用具・用材などを積極的に選択し、表現形式に応じた全体の構成を工夫し、個性的な表現となるよう工夫を重ね、作品を練り上げていくことが大切である。書の表現や鑑賞の創造的な活動をとおして、自らの学習の成果を実感的に把握するとともに、作品の価値とその根拠を考え、生活や社会における書的美の効用と現代的意義への理解を深め、書ならではの見方・考え方を身につけ、これからの学習や生活の中で生かすようにしたい。

4 学習計画および評価方法等

[1] 学習計画等

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考 (学習活動の特記事項、他教科・総合的な学習の時間・特別活動等との関連など)	考查範囲
一学期	一 漢字の書の学習	4	<p>篆書の成立と歴史的変遷について理解を深めます。</p> <p>代表的な篆書の古典を鑑賞し、時代背景などに関する知的理解を図るとともに、臨書学習をとおして、各古典の特徴を把握し、篆書の効果的な表現の技能を身につけ、各古典の特徴と用筆・運筆の関わりについて理解します。</p>	<p>世界史の学習に関連します。</p> <p>篆書の学習と関連を図り、文字が刻されてきた歴史について理解を図るようにします。</p>	一学期期末考查
	一 篆書の学習 1 篆書の成立と変遷 2 石鼓文 3 召尊(金文) 4 甲骨文	5			
	二 篆刻・刻字の学習 1 篆刻の学習 2 刻字の学習	6	<p>書表現の一分野としての篆刻を学習し、生徒の特性等を考慮して刻字も加えて学びます。篆書の学習と関連を図るとともに、印の歴史と表現の多様性について学び、文字文化の視点から書の伝統と文化ならびに生活や社会との関わりについて理解を深めます。</p>		
	三 隷書の学習 1 隷書の成立と変遷 2 乙瑛碑 3 曹全碑 4 居延漢簡 5 石門頌	7	<p>隷書の成立と歴史的変遷について理解を深めます。</p> <p>代表的な隷書の古典を鑑賞し、時代背景などに関する知的理解を図るとともに、臨書学習をとおして、各古典の特徴を把握し、隷書の効果的な表現の技能を身につけ、各古典の特徴と用筆・運筆の関わりについて理解します。</p>		
<p>【課題・提出物等】</p> <p>1 毎時間の学習内容は「学習記録」に記録します。</p> <p>2 提出前の途中経過（制作の初期段階の作品から、意見交換した作品、完成作品など）を記録としてファイルします。</p> <p>3 単元ごとに「学習記録」とファイルをもとに「学習のまとめ」を行い、学習を振り返り自己評価します。</p> <p>4 課題に応じて作品やワークシートなどを提出します。</p>					
<p>【一学期の評価方法】</p> <p>1 提出作品、学習過程、「学習記録」等による学習過程、「学習のまとめ」の内容、期末考查を中心に、用具・用材の扱いを含め、主体的に学習に取り組む態度も含めて総合的に評価します。</p> <p>2 学期全体の評価は提出作品で40%、活動の様子、「学習記録」による学習過程と「学習のまとめ」で30%、期末考查で15%、主体的に学習に取り組む態度15%の配分で行います。</p> <p>3 提出作品は、導入では用筆・運筆を工夫して表現することができたか、また漢字の書については、対象となる古典の特徴を表現できたかという点が評価の規準となります。</p>					
二学期	四 草書の学習 1 草書の成立 2 草書の特徴 3 書譜 4 十七帖 5 忽恵帖	9	<p>草書の成立と歴史的変遷について理解を深めます。</p> <p>代表的な草書の古典を鑑賞し、時代背景などに関する知的理解を図るとともに、臨書学習をとおして、各古典の特徴を把握し、草書の効果的な表現の技能を身につけ、各古典の特徴と用筆・運筆の関わりについて理解します。</p>	<p>簡牘等に速書されることで、省略が進み、紙の普及を伴って、草書や行書が成立することについて理解します。</p>	二学期期末考查
	五 行書の学習 1 集王聖教序 2 温泉銘 3 争坐位稿 4 蜀素帖 5 灌頂歴名	10			
	六 楷書の学習 1 孟法師碑 2 顔勤礼碑 3 魏靈藏造像記		<p>「書道Ⅰ」の学習を発展させ、さまざまな楷書の古典を鑑賞し、時代背景などに関する知的理解を図るとともに、臨書学習をとおして、各古典の特徴を把握し、楷書の効果的な表現の技能を身につけ、各古</p>		

4 薦季直表 5 楽毅論 漢字の書の制作 漢字の書の鑑賞 二 仮名の書の学習 1 仮名の書の特徴 2 高野切 第一種・第二種・第三種 3 三色紙の散らし書き		典の特徴と用筆・運筆の関わりについて理解します。	漢字の草書体から平仮名への発展については、国語の古典の学習や日本史における平安時代の学習に関連します。
	11	さまざまな古典の臨書や鑑賞をとおして身につけた表現方法をもとに、作品を制作します。感興や意図に応じて作品を構想し表現を工夫していきます。	
	12	さまざまな漢字の書の作品を鑑賞し、書風の特徴について自分の言葉で表現し、話し合う。 「書道Ⅰ」の学習を発展させて、平仮名と変体仮名の交え方、連綿や散らし書きなどの、仮名の書のさまざまな表現について学習します。 さまざまな仮名の書の古典を鑑賞し、時代背景等に関する知的理解を図るとともに、臨書学習をとおして、各古典の特徴を把握し、仮名の書の効果的な表現の技能を身につけ、各古典の特徴と用筆・運筆の関わりについて理解します。また、短冊や散らし書きなどの表現形式についても理解を深めます。	
【課題・提出物等】 1 毎時間の学習内容は「学習記録」に記録します。 2 提出前の途中経過（試書・中間まとめ・添削を受けたものなど）を記録としてファイルします。 3 单元ごとに「学習記録」とファイルをもとに「学習のまとめ」を行い、自己評価します。 4 課題に応じて作品を提出します。作品制作は数時間かけて完成させます。			
【二学期の評価方法】 1 提出作品、学習過程、「学習記録」等による学習過程、「学習のまとめ」の内容、期末考査を中心に、用具・用材の扱いを含め、主体的に学習に取り組む態度も含めて総合的に評価します。 2 学期全体の評価は提出作品で40%、活動の様子、「学習記録」による学習過程と「学習のまとめ」で30%、期末考査で15%、主体的に学習に取り組んでいる態度15%の配分で行います。 3 提出作品は、漢字の書については対象となる古典の特徴を表現できたか、制作作品については自分の意図したように表現することができたか、仮名の書については基本的な用筆が習得できたか、臨書においては対象となる古典の特徴を表現できたかが評価の規準となります。			

三 学 期 4 小字による表現 5 大字による表現と鑑賞 三 漢字仮名交じりの書の学習 1 感じよう、考えよう 2 創造的な表現を探る 3 感動や思いを表現しよう 4 漢字仮名交じりの書の表現と鑑賞 5 漢字仮名交じりの書の変遷 書を生活の中に生かしてみよう	1	さまざまな仮名の書の古典の臨書や鑑賞をとおして身につけた表現方法をもとに、小字や大字による作品を制作します。感興や意図に応じて作品を構想し表現を工夫していきます。	言葉の選定においては、国語科の学習、読書活動、学校行事との関連を図り、実感的に作品を構想し、表現を工夫できるように設定します。 「書道Ⅱ」の学習をとおして、どのような見方・考え方を身につけたかを確かな言葉で伝えられるようにしたい。
	2	「書道Ⅰ」の学習を発展させて、さまざまな漢字および仮名の古典の学習をもとに、その表現を応用した漢字仮名交じりの書の制作を行います。 詩文の選定、表現形式、用具・用材、全体の構成などを考えながら、感興や意図に応じて作品を構想し、表現を工夫していきます。現代に生きる創造的な表現を構想し工夫し、感性をはたかせながら、個性豊かに表現していきます。	
	3	さまざまな漢字仮名交じりの書の作品を鑑賞し、作者の意図と表現の工夫について自分の言葉で表現し、話し合う。 これまでの書の学習をとおして、書ならではの見方・考え方を身につけ、生活や社会における書の美の効用や現代的意義について考え、さまざまな場面で生かす工夫をしてみましょう。	
【課題・提出物等】 1 毎時間の学習内容は「学習記録」に記録します。 2 提出前の途中経過（試書・中間まとめ・添削を受けたものなど）を記録としてファイルします。 3 单元ごとに「学習記録」とファイルをもとに「学習のまとめ」を行い、自己評価します。 4 課題に応じて作品を提出します。			
【三学期の評価方法】 1 提出作品、学習過程、「学習記録」等による学習過程、「学習のまとめ」の内容、期末考査を中心に、用具・用材			

<p>の扱いを含め、主体的に学習に取り組む態度も含めて総合的に評価します。</p> <p>2 学期全体の評価は提出作品で40%、活動の様子、「学習記録」による学習過程と「学習のまとめ」で30%、期末考査で15%、主体的に学習に取り組む態度15%の配分で行います。</p> <p>3 提出作品は、漢字仮名交じりの書の作品については自分の意図した表現をすることができたかという点が評価の規準となります。</p>

【年間の学習状況の評価方法】

下記の三つの観点から評価した一学期、二学期、三学期の成績を総合し、年間の学習成績とします。

<p>確かな資質・能力を身につけるためのアドバイス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・書道の学習においては、感性をはたらかせて、直感的に作品のよさや美しさをとらえることが重要です。対象となる作品や古典に素直な気持ちで向かいましょう。 ・古典の特徴や作品を用筆・運筆、字形、全体の構成からとらえ、その書風をもたらす根拠を分析的に考えるようにしましょう。 ・古典の臨書活動では、それぞれの古典の特徴と用筆・運筆の関わりについて理解するようにしましょう。表現の効果的な技能を身につけるためには、ただ枚数を重ねるのではなく、1枚ごとに自分の解決すべき課題や問題点を見きわめ、それを解決するように学習を進めることが大切です。そのために「学習記録」は丁寧に書き、学習過程を振り返ることができるようにしておきましょう。 ・制作については「今、自分は何を表現したいか」という感興や表現の意図を大切にしましょう。詩文の選定、用具・用材の選択、作品を構想し表現を工夫していき、他人との対話的な学びをとおして、表現を練り上げていきましょう。
<p>授業を受けるにあたって守ってほしい事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はチャイムと同時に始めますので、用具を準備し着席を完了させてください。 ・用具は大切に扱い、特に、筆と硯はきれいに洗いましょう。 ・作品やワークシートなどはファイルにきちんと整理しておきましょう。

【2】評価の観点、内容および評価方法

学習の実現状況は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三つの観点で評価する。

評価の観点及び内容	評価方法
<p>知識・技能</p> <p>書の表現の方法や形式、書表現の多様性について理解を深めている。 【知識】</p> <p>書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための技能を身につけ、表している。 【技能】</p>	<p>【知識】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品ファイル ・ワークシート ・「学習記録」による学習過程 ・定期考査 <p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提出作品 ・作品ファイル ・ワークシート ・「学習のまとめ」の内容
<p>思考・判断・表現</p> <p>書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深くとらえたりしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・提出作品 ・活動の様子 ・「学習記録」による学習過程 ・作品ファイル ・ワークシート ・「学習のまとめ」の内容 ・定期考査
<p>主体的に学習に取り組む態度</p> <p>主体的に書の表現及び鑑賞の創造的な活動に取り組もうとしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の様子 ・提出作品 ・作品ファイル ・ワークシート ・「学習記録」による学習過程

(1) 「知識・技能」の評価について

書道の学習の過程をとおした知識及び技能の習得状況を評価する。また、すでに身につけている知識及び技能と関連づけたり、活用したりするなかで、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念を理解したり、技能を習得したりしているかも評価していく。各授業の中では、「知識」「技能」の習得状況を学習活動に応じて個々に評価していくが、学期末には「知識・技能」としてまとめて評価していくことになる。

「知識」は、表現及び鑑賞の両方の活動において評価し、書の表現の方法や形式、書表現の多様性について理解を深めているかを、ワークシートや学習の記録などから評価していく。

「技能」は、表現活動において、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための技能を身につけているかを、提出作品や作品ファイル、活動の様子などから評価していく。

(2) 「思考・判断・表現」の評価について

書道における知識及び技能を活用して課題を解決するための思考力、判断力、表現力等を身につけているかを評価する。

表現活動では、書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し、個性豊かに表現を工夫しているかを、ワークシートや学習記録、活動の様子、作品などから評価していく。

鑑賞活動では、書のよさや美しさを感じ、作品の価値とその根拠について考え、生活や社会における書の美の効用と現代的意義について考え、書の美を味わい深くとらえているかを、ワークシート、学習記録、活動の様子などから評価していく。

(3) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

書道の表現及び鑑賞の創造的な活動において、知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力を身につけたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら学ぼうとしているか、評価する。一定の学習のまとまりのなかで、表現と鑑賞ごとに評価するが、学期末には一体的に評価していく。

表現活動では自身の活動を振り返りながら試行錯誤を繰り返し粘り強く学んでいる様子や、構想を練り直したり表現の工夫を重ねたりしている過程を活動の様子や学習記録などから評価していく。

鑑賞活動では、作品のよさや美しさを感じ、分析的に作品をとらえようとしたり、書の伝統と文化の価値について主体的に考えたり、生活や社会における文字や書の美の効用や現代的意義を考え、見方・考え方を広げたりしているかを、活動の様子や学習記録から評価していく。

[3] 担当者からのメッセージ

- ・「何ができるようになったか」を大切にしたいと思います。自らの感興と意図に応じて構想し、個性豊かに表現を工夫していきましょう。毎時間、各単元、学期での学習をとおして、どのような力が身についたかを実感できるようにしていきましょう。主体的に書の創造的な学習に取り組みながら、他者との対話をとおして表現を練り上げ、深い学びへとつなげていきましょう。
- ・一人ひとりの個性を生かし、これを伸ばしていくことを学習の第一目標としています。臨書する古典や制作作品の題材とする語句などの選定について、自分を最高に生かせる選択をしていきたいものです。
- ・「書道Ⅱ」の学習をとおして、書の表現の多様性について理解を深め、書ならではの見方・考え方を身につけ、生涯にわたり書を身近な存在として感じられるようになってほしいと思います。

教育出版『書道Ⅱ』（書Ⅱ 703）準拠 年間学習指導計画例・単元の設定例

月	学習事項	教科書ページ	配当時間	●単元の目標(例) ○学習活動(例)	備考	
4	書的美を求めて 書美に関わるもの	前見返し 口絵	適宜	○書道Ⅱの学習を始めるにあたり、書美の特質について理解を深めたり書美に関わるさまざまな要素に触れたりする。	・「書道Ⅱ」の導入期の指導として位置づけたり、「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」に設定されている各単元と関連づけて一体的に扱ったりすることが考えられる。	
	一 漢字の書の学習					
5	1 篆書の成立と変遷	4~5	8	●(1) 知識及び技能 ・篆書を構成するさまざまな要素、篆書の古典の特徴と用筆・運筆との関わりを理解する。(表現「知識」) ・篆書の古典の線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、中国の文字と書の伝統と文化、篆書の古典の美と時代、風土との関わりについて理解を深める。(鑑賞「知識」) ・篆書の古典に基づく効果的な表現の技能、変化や調和等による全体の構成の技能を身につける。(表現「技能」) ●(2) 思考力、判断力、表現力等 ・篆書の表現形式に応じた全体の構成、感興や意図に応じた個性的な表現について構想し工夫する。(表現) ・篆書の古典や臨書した作品の価値とその根拠、生活や社会における篆書の美と効用と現代的意義について考え、書よさや美しさを味わって深くとらえる。(鑑賞) ●(3) 学びに向かう力、人間性等 ・篆書の古典の特質に基づく創造的な表現活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(表現) ・篆書の古典のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、創造的な鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に関する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(鑑賞)	・「漢字の書」に位置づけられている篆刻・刻字の学習と関連づけて指導することが考えられる。	
	2 石鼓文	6~7				・漢字の書における「篆書の学習」をまとめて目標を示しているが、「篆書①石鼓文の学習」、「篆書②甲骨文と金文の比較をとおして」というように、生徒の実態等に応じた単元を設定して学習計画を作成することも考えられる。「知識及び技能」の特に「技能」においては、「篆書の古典」と示している部分は、「石鼓文」「召尊(金文)」等の具体的な古典名とすることとなる。「知識」については、例えば、甲骨文と金文を比較して理解するなど一体的に扱うことも可能である。
	3 召尊(金文)	8~9				
	4 甲骨文	11				
6	1 篆刻の学習 印の歴史(中国・日本) / いろいろな印	14~15	6	●(1) 知識及び技能 ・篆刻(刻字)の表現を構成するさまざまな要素、篆刻(刻字)の古典の特徴と用刀・運刀との関わりを理解する。(表現「知識」) ・篆刻(刻字)の古典の線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、中国の文字と書の伝統と文化について理解を深める。(鑑賞「知識」) ・篆刻(刻字)の古典に基づく効果的な表現の技能、変化や調和等による全体の構成の技能を身につける。(表現「技能」) ●(2) 思考力、判断力、表現力等 ・篆刻(刻字)の表現形式に応じた全体の構成、感興や意図に応じた個性的な表現について構想し工夫する。(表現) ・篆刻(刻字)の古典や刻した作品の価値とその根拠、生活や社会における篆刻(刻字)の美と効用と現代的意義について考え、書よさや美しさを味わって深くとらえる。(鑑賞) ●(3) 学びに向かう力、人間性等 ・篆刻(刻字)の古典の特質に基づく創造的な表現活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(表現) ・篆刻(刻字)の古典のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、創造的な鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に関する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(鑑賞)	・書道Ⅱでは篆刻を必ず扱い、生徒の特性等を考慮して、刻字を加えることもできる。刻字の学習については、「篆刻」を「刻字」に変えて、単元の目標を設定することが可能である。	
	印の章法	15				
	刻る手順	16~17				
	2 刻字の学習 刻字の用具・用材	18				
	刻る手順	18				
	刻字の鑑賞	19				
7	1 隷書の成立と変遷	20~21	8	●(1) 知識及び技能 ・隷書を構成するさまざまな要素、隷書の古典の特徴と用筆・運筆との関わりを理解する。(表現「知識」) ・隷書の古典の線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、中国の文字と書の伝統と文化、隷書の古典の美と時代、風土との関わりについて理解を深める。(鑑賞「知識」) ・隷書の古典に基づく効果的な表現の技能、変化や調和等による全体の構成の技能を身につける。(表現「技能」) ●(2) 思考力、判断力、表現力等 ・隷書の表現形式に応じた全体の構成、感興や意図に応じた個性的な表現について構想し工夫する。(表現) ・隷書の古典や臨書した作品の価値とその根拠、生活や社会における隷書の美と効用と現代的意義について考え、書よさや美しさを味わって深くとらえる。(鑑賞) ●(3) 学びに向かう力、人間性等 ・隷書の古典の特質に基づく創造的な表現活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(表現) ・隷書の古典のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、創造的な鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に関する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(鑑賞)	・漢字の書における「隷書の学習」をまとめて目標を示しているが、各単元の設定においては、「隷書の学習①乙瑛碑の学習」「隷書の学習②八分と古隸」というように、二つの古典を比較したり、各古典の学習を一つの単元としたりして学習計画を作成することも考えられる。 ・各古典の学習を一つの単元として設定する場合は、特に「技能」においては、「隷書の古典」と示している部分は、「乙瑛碑」「曹全碑」「石門頌」等の具体的な古典名とすることとなる。	
	2 乙瑛碑	22~23				
	3 曹全碑	24				
	4 居延漢簡	25				
	5 石門頌	26~27				
9	1 草書の成立	30	6	●(1) 知識及び技能 ・草書を構成するさまざまな要素、草書の古典の特徴と用筆・運筆との関わりを理解する。(表現「知識」) ・草書の古典の線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、中国の文字と書の伝統と文化、草書の古典の美と時代、風土、筆者との関わりについて理解を深める。(鑑賞「知識」) ・草書の古典に基づく効果的な表現の技能、変化や調和等による全体の構成の技能を身につける。(表現「技能」) ●(2) 思考力、判断力、表現力等 ・草書の表現形式に応じた全体の構成、感興や意図に応じた個性的な表現について構想し工夫する。(表現) ・草書の古典や臨書した作品の価値とその根拠、生活や社会における草書の美と効用と現代的意義について考え、書よさや美しさを味わって深くとらえる。(鑑賞) ●(3) 学びに向かう力、人間性等 ・草書の古典の特質に基づく創造的な表現活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(表現) ・草書の古典のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、創造的な鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に関する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(鑑賞)	・漢字の書における「草書の学習」をまとめて目標を示しているが、各単元の設定においては、「草書の学習①王羲之の草書と書譜」「草書の学習②日本の草書の学習 忽惠帖」というように、二つの古典を比較したり、各古典の学習を一つの単元としたりして学習計画を作成することも考えられる。 ・各古典の学習を一つの単元として設定する場合は、特に「技能」においては、「行書の古典」と示している部分は、「書譜」「十七帖」「忽惠帖」等の具体的な古典名とすることとなる。	
	2 草書の特徴	31				
	3 書譜	32~33				
	4 十七帖	34				
	5 忽惠帖	35				
5 行	1 集王聖教序	36~37	6	●(1) 知識及び技能 ・行書を構成するさまざまな要素、行書の古典の特徴と用筆・運筆との関わりを理解する。(表現「知識」) ・行書の古典の線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、中国の文字と書の伝統と文化、行書の古典の美と時代、風土、筆者との関わりについて理解を深める。(鑑賞「知識」) ・行書の古典に基づく効果的な表現の技能、変化や調和等による全体の構成の技能を身につける。(表現「技能」) ●(2) 思考力、判断力、表現力等 ・行書の表現形式に応じた全体の構成、感興や意図に応じた個性的な表現について構想し工夫する。(表現)	・漢字の書における「行書の学習」をまとめて目標を示しているが、各単元の設定においては、「行書の学習①王羲之と顔真卿」「行書の学習②唐代の行書」「行書の学習③日本の行書」というように、二つの古典を比較したり、各古典の学習を一つの単元としたりして学習計画を作成することも考えられる。 ・各古典の学習を一つの単元として設定する場合は、特に「技能」においては、「行書の古典」と	
	2 温泉銘	38				
	3 争坐位稿	39				

10	書 の 学 習	4 蜀素帖	40	6	工夫する。(表現) ・行書の古典や臨書した作品の価値とその根拠、生活や社会における行書の美と効用と現代的意義について考え、書の上さや美しさを味わって深くとらえる。(鑑賞) ●(3) 学びに向かう力、人間性等 ・行書の古典の特質に基づく創造的な表現活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(表現) ・行書の古典の上さや美しさを感受し、作品や書の意味や価値について考えながら、創造的な鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に関する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(鑑賞)	示している部分は、「集王聖教序」「温泉銘」「灌頂歴名」等の具体的な古典名とすることとなる。指導計画の作成にあたっては、書道Ⅰでの学習をふまえ、発展的に学習が深まるように設定したい。
		5 灌頂歴名	41			
11	六 楷 書 の 学 習	1 孟法師碑	44	6	●(1) 知識及び技能 ・楷書を構成するさまざまな要素、楷書の古典の特徴と用筆・運筆との関わりを理解する。(表現「知識」) ・楷書の古典の線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、中国の文字と書の伝統と文化、楷書の古典の美と時代、風土、筆者との関わりについて理解を深める。(鑑賞「知識」) ・楷書の古典に基づく効果的な表現の技能、変化や調和等による全体の構成の技能を身につける。(表現「技能」) ●(2) 思考力、判断力、表現力等 ・楷書の表現形式に応じた全体の構成、感興や意図に応じた個性的な表現について構想し工夫する。(表現) ・楷書の古典や臨書した作品の価値とその根拠、生活や社会における楷書の美と効用と現代的意義について考え、書の上さや美しさを味わって深くとらえる。(鑑賞) ●(3) 学びに向かう力、人間性等 ・楷書の古典の特質に基づく創造的な表現活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(表現) ・楷書の古典の上さや美しさを感受し、作品や書の意味や価値について考えながら、創造的な鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に関する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(鑑賞)	・漢字の書における「楷書の学習」をまとめて目標を示しているが、各単元の設定においては、「楷書の学習①唐代のさまざまな楷書」「楷書の学習②日本の楷書の学習」というように、二つの古典を比較したり、各古典の学習を一つの単元としたりして学習計画を作成することも考えられる。 ・各古典の学習を一つの単元として設定する場合は、特に「技能」においては、「楷書の古典」と示している部分は、「孟法師碑」「楽毅論」等の具体的な古典名とすることとなる。
		2 顔勤礼碑	45			
		3 魏靈藏造像記	46			
		4 蔣季直表	48			
		5 楽毅論	49			
		漢字の書の制作	50～53	6	●(1) 知識及び技能 ・漢字の書を構成するさまざまな要素、古典の特徴と用筆・運筆との関わりを理解する。(表現「知識」) ・漢字の書の線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、中国の文字と書の伝統と文化、漢字の書の特質とその歴史について理解を深める。(鑑賞「知識」) ・漢字の書の古典に基づく効果的な表現の技能、変化や調和等による全体の構成の技能を身につける。(表現「技能」) ●(2) 思考力、判断力、表現力等 ・漢字の書の表現形式に応じた全体の構成、感興や意図に応じた個性的な表現について構想し工夫する。(表現) ・漢字の書の制作した作品の価値とその根拠、生活や社会における漢字の書の美と効用と現代的意義について考え、書の上さや美しさを味わって深くとらえる。(鑑賞) ●(3) 学びに向かう力、人間性等 ・漢字の書の特質に基づく創造的な表現活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(表現) ・漢字の書の上さや美しさを感受し、作品や書の意味や価値について考えながら、創造的な鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に関する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(鑑賞)	・漢字の書の多様な古典の臨書の学習で身につけた資質・能力を基礎として、生徒が意図に基づいて主体的に構想し、表現を工夫しながら作品を完成させることで自己実現をし、達成感が味わえるように指導計画を設定したい。
		漢字の書の鑑賞	54～55			
12	二 仮 名 の 書 の 学 習	二 仮名の書の学習		10	●(1) 知識及び技能 ・仮名の書を構成するさまざまな要素、古典の特徴と用筆・運筆との関わりを理解する。(表現「知識」) ・仮名の書の線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化、仮名の書の美と時代、風土、筆者などの関わりについて理解を深める。(鑑賞「知識」) ・仮名の書の古典に基づく効果的な表現の技能、墨継ぎ、散らし書き等による全体の構成の技能を身につける。(表現「技能」) ●(2) 思考力、判断力、表現力等 ・仮名の書の表現形式に応じた全体の構成、感興や意図に応じた個性的な表現について構想し工夫する。(表現) ・仮名の書の古典と制作した作品の価値とその根拠、生活や社会における仮名の書の美と効用と現代的意義について考え、書の上さや美しさを味わって深くとらえる。(鑑賞) ●(3) 学びに向かう力、人間性等 ・仮名の書の特質に基づく創造的な表現活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(表現) ・仮名の書の上さや美しさを感受し、作品や書の意味や価値について考えながら、創造的な鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に関する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(鑑賞)	・仮名の書における古典の学習をまとめて、目標を示しているが、各単元の設定においては、「仮名の書の学習①高野切の学習」「仮名の書の学習②三色紙と散らし書き」というように、いくつかの古典を比較したり、各古典の学習を一つの単元としたりして学習計画を作成することも考えられる。 ・各古典の学習を一つの単元として設定する場合は、特に「技能」においては、「仮名の書の古典」と示している部分は、「高野切第一種」「寸松庵色紙」「継色紙」等の具体的な古典名とすることとなる。指導計画の作成にあたっては、書道Ⅰでの学習をふまえ、発展的に学習が深まるように設定したい。
		1 仮名の書の特徴	58～59			
		2 高野切 第一種・第二種・第三種	60～61			
		高野切第一種の臨書と短冊の書式	62～63			
		3 三色紙の散らし書き	68～73			
1		4 小字による表現	74	7	●(1) 知識及び技能 ・仮名の書を構成するさまざまな要素、古典の特徴と用筆・運筆との関わりを理解する。(表現「知識」) ・仮名の書の線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化、仮名の書の特質とその歴史について理解を深める。(鑑賞「知識」) ・仮名の書の古典に基づく効果的な表現の技能、墨継ぎ、散らし書き等による全体の構成の技能を身につける。(表現「技能」) ●(2) 思考力、判断力、表現力等 ・仮名の書の表現形式に応じた全体の構成、感興や意図に応じた個性的な表現について構想し工夫する。(表現) ・仮名の書の制作した作品の価値とその根拠、生活や社会における仮名の書の美と効用と現代的意義について考え、書の上さや美しさを味わって深くとらえる。(鑑賞) ●(3) 学びに向かう力、人間性等 ・仮名の書の特質に基づく創造的な表現活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(表現) ・仮名の書の上さや美しさを感受し、作品や書の意味や価値について考えながら、創造的な鑑賞の学習活動に主体的に取り組み、書に関する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(鑑賞)	・仮名の書の多様な古典の臨書の学習で身につけた資質・能力を基礎として、生徒が意図に基づいて主体的に構想し、表現を工夫しながら作品を完成させることで自己実現をし、達成感が味わえるように指導計画を設定したい。
		5 大字による表現と鑑賞	78			
三	漢 字 仮 名 交 じ り	三 漢字仮名交じりの書の学習		12	●(1) 知識及び技能 ・漢字仮名交じりの書を構成するさまざまな要素、名筆や現代のさまざまな書の表現と用筆・運筆との関わりを理解する。(表現「知識」) ・漢字仮名交じりの書の線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本の文字と書の伝統と文化、漢字仮名交じりの書の特質とその歴史、漢字仮名交じりの書の美と時代、風土、筆者などの関わりについて理解を深める。(鑑賞「知識」) ・目的や用途、意図に応じた効果的な表現の技能、漢字と仮名の調和等による全体の構成の技能を身につける。(表現「技能」) ●(2) 思考力、判断力、表現力等 ・漢字仮名交じりの書の目的や用途、表現形式に応じた全体の構成、感興や意図に応じた個性的な表現、現代に生きる個性的な表現について構想し工夫する。(表現) ・漢字仮名交じりの書の制作した作品の価値とその根拠、生活や社会における漢字仮名交じりの書の美と効用と現代的意義について考え、書の上さや美しさを味わって深くとらえる。	・「漢字仮名交じりの書」は「漢字の書」「仮名の書」のように内容のまとまりの中に複数の単元設定が難しいと考えられる。ここでは、言葉の選定から作品の完成までの一連の「創作活動」を一つの単元として設定している。「書道Ⅰ」の学習をふまえ、創造的な表現活動をおとして、学習の深化を図るようにしたい。 ・生徒一人一人が生み出した作品にはかけがえのない価値があり、自己や他者が生み出した著作物等に価値があることを理解しそれらを尊重し合う態度を養いたい。必要に応じて書に関する知的財産権にふれたい。(他の単元も同様)
		1 感じよう、考えよう	80～81			
		2 創造的な表現を探る	82～83			
2		3 感動や思いを表現しよう	84～91			

3 の 書 の 学 習	4 漢字仮名交じりの書の表現と鑑賞	92～93	適宜	る。(鑑賞) ●(3) 学びに向かう力、人間性等 ・漢字仮名交じりの書の特質に基づく創造的な表現活動に主体的に取り組み、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(表現) ・漢字の書のよさや美しさを感じ、作品や書の意味や価値について考えながら、創造的な鑑賞の学習活動に取り組み、書に関する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。(鑑賞)	
	5 漢字仮名交じりの書の変遷	94			
	書を生活の中に生かしてみよう	95			
	○書の変遷	96～99			
	○書道史略年表	100～103			
○博物館や美術館に行ってみよう	104				
○索引	後見返し				

※ここに掲げているのは、一学期24時間（12週）、二学期30時間（15週）、三学期16時間（8週）とした年間70時間の目安です。
 ※生徒の特性、学校や地域の実態を考慮し、表現領域については「漢字仮名交じりの書」を必ず扱い、「漢字の書」または「仮名の書」のうち一つ以上を選択して学習し、学習の深化を図ることもできる。